

とくだね



「山茶花」 撮影：徳田 元

目次

◆新年挨拶 2~3	◆一次脳卒中センターについて / 日本脳卒中学会研修教育施設について 6
◆各部新年抱負 4	◆院内症例研究発表会について / 部署紹介 7
◆医師紹介 / 医療講演会について 5	◆新型コロナウイルス感染予防における当院の対策について 8

医療法人秋津会

〽 **理念** 〽

地域と共生し、活力ある医療をめざします。

〽 **基本方針** 〽

一、脳疾患の急性期医療を充実させ地域住民の救急救命に貢献します。

一、地域医療連携を深め患者様の社会生活・在宅復帰を支援します。

一、患者様の権利を尊重し、説明と同意に基づいた安心と満足の医療を提供します。

一、職員の職業倫理、法令遵守の精神を涵養して、組織を支える人材の育成に努めます。

〽 **職業倫理規定** 〽

当院職員は、医療人としての社会的使命・職責の重大性を認識し、当院すべての職種に求められる職業倫理を以下のように定めます。

一、医療を受ける患者様の権利と人格を常に尊重します。

一、ホスピタリティの心で患者様の立場に立ち信頼されるように務めます。

一、知識と技術の習得向上のために、常に生涯学習を行います。

一、他職種との相互尊重で協力関係を保ちチーム医療を向上させます。

一、医療の公共性と安全性を重んじ、法規範を遵守した運営に努めます。

〽 **患者様の権利と責務** 〽

一、公平な医療を受ける権利

一、十分な説明を受ける権利

一、医療に関して自ら決定する権利

一、個人情報保護と開示を求める権利

一、当院の最善の医療を受ける権利

一、良い治療のために私たち医療従事者と協力する責務

一、公平な医療を受ける権利

一、十分な説明を受ける権利

一、医療に関して自ら決定する権利

一、個人情報保護と開示を求める権利

一、当院の最善の医療を受ける権利

一、良い治療のために私たち医療従事者と協力する責務



理事長
徳田 元

コロナ禍の新年を迎える事となりました。

みなさまいかがお過ごしでしょうか。新型コロナウイルス感染が大隅半島まで広がってきました。ニュースによりますます今年は爆発的な拡がりが見込まれています。

年末から新年にかけては個々の移動を自粛し、大晦日の年越し行事、初詣など控えて過ごされたことでしょうか。なんとか新型コロナウイルス感染が収まってくれることを祈るばかりです。ワクチンが2月頃から接種可能との報道もあり、その効果を期待するものです。

さて前回報告いたしましたように、新たな病院を作る計画です。設計は進み、新築のための計画は確実に進められております。着工が計画よりもやや遅れて今年の夏過ぎになると思います。新たな病院の完成移転は2023年5月ごろを予定しております。

新病院は将来にわたり継続的に地域での脳卒中治療の中核病院として医療を提供する事を基本姿勢としていきます。中でも24時間、365日救急の受け入れ体制を継続することは脳卒中治療の使命と

も考えております。専門性をより発揮する為の設備や装置の導入も計画しております。同時に職員が共に専門性を高め誇りとやりがいを持つことのできる環境作りも大切であり、2023年までに完了しておかなければなりません。ご期待ください!!

さて私は年齢からして新しいことに挑戦することより今を継続する事を大切に思い、20年ほど前から毎日のウォーキングを日課としております。

コロナ禍では理想的な運動だと言えます。広々とした畑の中を自分の思い通りの速さで、しかも3密とは縁遠い空間を歩けます。季節ごとに、春はキジの鳴く声や小鳥のさえずりを聞き、桜の時期は桜の花を愛で、秋は紅葉の色を楽しみながらできます。爽やかであったり、清々しかったり、暑くて息切れしそうな事、寒くて凍えそうな時もあります。歩いた後は気分がスッキリし、考えがよくまとまります。

ウォーキング仲間とは「朝市の会」を結成し、月1回顔を合わせ近況報告などのたわい無い話をする集まりを続けております。会則は毎日歩く事、朝市には歩いて来ることです。

人生は最後まで自分の力で歩き、考え、冥土へのチケットを作りたいものと考えております。今年もよろしくお願ひ申し上げます。



名誉院長
諸木 浩一

皆様も新たな年を迎えられ、気持ちも新たにされていることと思います。

元号が令和に代わり、昨年は初めての令和の正月となりどのような時代になるか心弾んだ開始でした。しかし新型コロナウイルス感染症が世界的に波及し、1年たってもまだ収束の道筋が不透明な状況です。

現在コロナ感染は日本においては31万人、死亡が4355人、世界では9200万人、死亡が197万人の状況です。スペイン風邪の流行時とは衛生環境の違いや医学の進歩を考えると単純比較することは出来ませんが、急速な勢いで100年前に匹敵するような状況です。

特にヨーロッパにおいてはロックダウンの再開も起こっています。当初収束には2〜3年要すると言われた様にワクチン投与も始まっています。全ての人に接種が終わるのは、状況によっては来年までかかるかもしれません。

コロナウイルスによる感染は今

までに6種類ありましたが、この新型コロナウイルスは昨今のSARSやMARSと比べて敵として手ごわい特徴があります。予防方法としてはマスク着用や手洗いがいは当然のこととして、感染リスクが高まる「5つの場面」①飲酒を伴う懇親会②大人数や長時間に及ぶ飲食③マスクなしでの会話④狭い空間での共同生活⑤休憩時間での気の緩み等を避けるなど徹底して守る以外ないのででしょうか。

私達が注意しなければならぬのは、医療施設や介護施設におけるクラスターの発生で、それは職員や新規の患者さんからの持ち込みが原因となっており。そのため、入院患者さんと家族の面会が制限されていることは誠に申し訳のない状況と考えております。尚、長期化するようであれば家族との面会の機会を何らかの方法で検討しないといけないと考えます。完全な制圧は困難との考えを前提として、ライフスタイルも再構築していかねばなりません。大隅地域は高齢化が進み、感染すると重症化率が高いものと考えます。それぞれが自分の事だけでなく周囲の人のことも考えながら、一緒に立ち向かっていきましょう。



院長
橋口 昭人

2020年は賑やかな五輪イヤーとなる筈でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、

誰もが経験したことのない、閉塞感漂う一年となりました。当院でも、病院玄関での検温・問診や、入院患者さんへの面会原則禁止等、多方面に亘って制限を設けざるを得ない状況となりました。当院へ受診・入院された患者さんとそのご家族には大変ご不便・ご迷惑をお掛けしたことを改めてお詫び申し上げます。明けて2021年となり、全ての状況をリセットしたいところですが、ここ大隅半島内でもクラスター発生が確認され、九州の片田舎といえども安寧としていられない状況となりました。延期された東京五輪も現状を鑑みると、その開催はやはり困難なのかもしれません。そんな中、体操の内村航平選手が「出来ないではなく、どうやれば出来るのかを考えるべき」と諦め

ない発言をしたのが、私にとって強く印象に残りました。当院も「田舎の病院だから」、「小さな病院だから」と出来ない理由を挙げるのではなく、目の前の患者さんに対して何が出来るのか、どうやれば出来るのか常に考えて、一歩でも二歩でも前進・変化していく所存です。

1985年に鹿屋市大手町で開設、1991年3月に現地へ移転した当院は、2023年初夏から、隣接地での新病院稼働を計画しており、今夏より愈々その建設工事が始まります。今後ますます高齢化・過疎化の進む大隅半島において、地域住民の皆様が住み慣れた地域で安心して生活できるように、また、急性期脳疾患に罹っても安心してその診療を任せて頂けるように、少しずつでも前進し続ける病院を目指して参ります。まだまだコロナ騒動は収束の糸口さえ見えませんが、止まない雨はないのと同様、何時の日か平穏な日常が必ず戻ってくることを信じつつ、今年も新たな気持ちで職員一同努力していきたくと考えております。

本年もどうぞよろしくお願ひいたします。



看護部長
加治木 ゆかり

平成から令和へ年号が変わり3年目を迎えました。昨年もいろんな事がありました。1年が特に短く感じ、あつという間に過ぎたように思います。世界中がコロナ禍となり、東京オリンピックやごしま国体は延期となり、テレワークでの仕事、日常の過ごし方を変えざる負えない状況となりました。当院においては、病院玄関での検温や手指消毒のお願いに職員を配置し来院される方々に、ご協力頂き大変感謝致しております。また、入院患者様やご家族様には面会禁止となり、ご心配やご不安を余儀なくされる状況が続いております。しかし、「皆さん大変だね。頑張っつね。」等の優しい言葉をかけて頂き、救われる思いで一杯です。

看護部では、「患者様の人権を尊重し、安心・安全な看護をめざします」と理念に掲げ、日々取り組んでおります。2年前より「人を援助する」とは、何を、どのよう

について学んできましたが、昨年は延期又は中止となりました。院内・外における研修も感染対策として、リモートによる研修や人数制限・中止となるものが多くありました。患者様やご家族の思い、願い、価値観とは何か、患者様の苦しみに焦点を当てた考え、ケアによってその苦しみを和らげ、軽くし、なくするというスピリチュアルケア、さらに患者様の思いを引き出し、その思いに寄り添いながら、質の高い医療・看護に結びつける事ができるような、今年も引き続き学びを深めたいと思います。患者様やご家族様の行動や面会が制限される中では十分な情報が伝えられず、つらい思いをされる機会も増えています。このような時だからこそ多職種で連携し、安心して入院生活が送れますように取り組んで参ります。

今後も業務優先とならないよう、看護職員一人一人が患者様の声に耳を傾け、思いをしっかりと受けとめることができ、コロナ禍が続くことのような状況の中でも、地域の皆様信頼され、安心して頂ける医療・看護の提供ができるよう、創意工夫して二層努力して参ります。今年1年が皆様にとりまして、幸多く実り多い年となりますよう、心よりお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。本年も宜しくお願い致します。

～各部新年の抱負～



〔外来・手術室〕

新型コロナウイルス感染防止対策に御協力頂き、有難うございます。
今後も安心して受診して頂けるよう取り組み、迅速な対応を心がけて参ります。

〔2階病棟〕

2020年は患者様やご家族が安心して退院できるよう担当看護師の役割を再確認し、退院支援に力を入れてきました。昨年の学びを活かし患者様やご家族との関りを大切に他職種と協同し、より良い退院支援に努めて参ります。

〔3階病棟〕

現在コロナ禍にあり、入院中の面会が出来ないなどの苦痛や不安を抱えておられると思います。私たちは入院中にある患者様ご家族様へ寄り添える看護を、患者様の安心、安全、安楽に入院生活を送れるように努めてまいります。

〔薬剤科〕

薬物治療を適正に管理し医療安全につなげ、病院薬剤師としての役割を果たしつつ患者様へ寄り添えるよう努めます。薬に対しての疑問やお聞きになりたいことがありましたら、お声かけ下さい。

〔栄養科〕

病棟担当制で栄養管理を行い、ベッドサイドで患者様の声に耳を傾け、少しでも口から食べてもらえるよう努めています。栄養指導を通して、再発防止や退院時のサポートも行い、摂食機能、褥瘡、低栄養とチーム医療を充実して参ります。

〔検査科〕

チーム医療の一員として他部署との連携を図り、患者様に寄り添い、信頼、必要とされる検査科を目指し、スタッフ一丸となって業務に取り組んで参ります。

〔放射線科〕

他部署との連携を図り、スムーズな検査を行うことをモットーに、今年も安心安全で正確な画像の提供をして参ります。

〔リハビリテーション室〕

突然発症する脳卒中に対しては、十分なリスク管理のもとに早期から積極的なリハビリテーションが強く勧められます。そして、より効果的な回復を促すために多くの訓練量や頻度を確保して参ります。

〔地域医療連携室〕

コロナ禍で医療崩壊と叫ばれる今だからこそ、地域の医療機関が特色を生かし連携を深めていく必要があります。院内外の関係する多職種と、患者様やご家族が不安にならないようにスムーズな連携に努めます。

〔医療安全対策管理室〕

患者様の安全確保のために安全で安心・質の高い医療を提供することを基本に、インシデント事例に対する再発防止対策を恒常的に遂行し、安全で安心する医療組織を構築し医療事故防止に最善を尽くして参ります。

〔事務部〕

新型コロナ対策を最重要課題として、必要物品の調達や検温体制など事務部として取り組んでいきます。また、通常業務と共に今年着工予定である新病院建設に向けて、病院一丸となって取り組んでいきます。

〔診療情報管理室〕

今年は厚生労働省の電子カルテに関するガイドラインが改定される年です。
このガイドラインに従った、厳格な管理を行い患者様の大切な個人情報を守る取り組みを行います。

〔施設設備管理課〕

患者様には安心安全に療養して頂ける環境を、そして職員にはスムーズに業務が出来る環境を提供するために、点検やメンテナンスを強化し、トラブル事故のないよう努力してまいります。

〔居宅介護支援事業所〕

来年度は介護保険法改正があります。情報の収集と各事業所や医療機関と更なる連携を図り、担当制ではありますが、チーム力を大切に事業所全体で支援して参ります。

〔通所リハビリテーション〕

今年は利用者様の重症化予防と自立に向けた取り組みを積極的に支援します。また、地域や多職種と連携を強化し、在宅生活に向けた流動的で迅速な業務連携を実践出来るように、皆様と共に協力して参ります。

職員の紹介



医師 岳元裕臣
(たけもと ゆうしん)

こちらには7年前に2年間常勤医として勤務させていただきました。その後4年間は熊本大学の非常勤医師として週末に勤務させていただいております。この病院で、慣れ親しんだこの環境で、じっくりと手術に打ち込める環境をいただけたことにとっても感謝しております。

前回こちらから異動した後は、熊本市民病院、熊本大学病院と勤務し、4年間熊本大学の大学院で主にも膜下出血の基礎研究を行い博士号を取得しました。その間には研究を通して国内外の多くの先生方から刺激をいただき、臨床と研究の両方を今後も行っていきたいと強く思い、来年には米国留学を予定し、この度1年間の短い間で、こちらに赴任させていただくこととなりました。しかし現在、新型コロナウイルスによる様々な制限により留学を含めた米国への留学はストップしておりますので、状況によっては長くお世話になるかもしれません。その間、できるだけたくさんの方に患者さんと向き合い、患者さんにやさしい医療を目標に、日々の技術研鑽を惜しまず行っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いたします。



医師 田嶋恒三
(たしま こうそう)

脳神経外科専攻医として赴任致しました。熊本大学病院脳神経外科の医局の人事で鹿屋へやってきましたが、実は私の出身は鹿児島であり、幼少期より小中高校と鹿児島市の学校に通っております。熊本大学に入学、卒業後は済生会熊本病院で研修医として2年間勤務した後、熊本大学脳神経外科に入局しました。大学病院で1年、そして人吉医療センターで1年勤務し、この度徳田脳神経外科病院へやってきました。鹿児島出身の私としては、大学入学から10年近く鹿児島を離れており、今回鹿児島で働ける機会をいただき非常に嬉しく思っております。久しぶりの鹿児島での生活は桜島の降灰に悩まされる一方、その不便さに懐かしさを感じており、自分にも鹿児島愛が残っているな、と感じます。

話は変わりますが、徳田脳神経外科病院での仕事も私なりにやっていると慣れてきたところではあります。このコロナ禍の状況で病院内が慌ただしい中、先生方をはじめ、外来・病棟のスタッフの皆様には大変お世話になっております。この病院の印象は、今まで私が経験してきた病院よりさらに、スタッフの皆様との距離の近いということが多く、多くのことを気軽に聞くことができます。非常に働きやすく感じています。脳神経外科医として成長し、この病院および地域の医療へ貢献できるように日々研鑽し精進して参りますので、皆様にはご指導いただければと存じます。

最後になりますが、私はよく声が小さいなどと言われ、無口な方だと思われがちですが、多少の人見知りがあるだけです。どうぞしお声掛けいただければと思います。どうぞこれからもよろしくお願申し上げます。



鹿児島酸素株式会社 大隅営業所にて 医療講演会を開催

10月21日、鹿児島酸素株式会社 大隅営業所にて、橋口院長が医療講演を行いました。約1時間程でありましたが、皆様大変熱心に聴講頂き、終了後には生活習慣病との関連性等のご質問も頂きました。今回講演の機会を頂きました、鹿児島酸素株式会社 大隅営業所の皆様に、深く感謝致します。



脳卒中出前講座

当院では、地域の皆さまに脳卒中やその原因となる生活習慣病についてご理解いただくことを目的に、脳神経外科医が講師として、ご希望の地域にお伺いする「出前講座」を開催しています。脳の専門家による健康を保つ秘訣や、いざという時に役立つ知識を学んで日々の健康づくりにご活用下さい。

～開催について～

日程：出来るだけご希望に沿うように致しますが、講師の診療や手術等により、調整させて頂く場合があります。

時間：質疑応答含め、1時間ほど

場所：地域の皆さまが参加しやすい場所（公民館等）をお願いします。

費用：無料

※講演に必要な映像機器等は持参します。



お問い合わせ

徳田脳神経外科病院

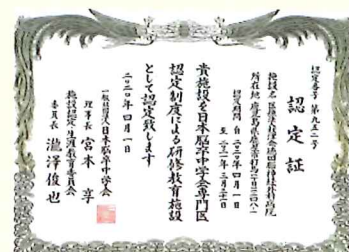
電話：0994-44-1119 / 担当：地域連携室 安楽

日本脳卒中学会研修教育施設について

当院は、脳卒中専門医としての修練を行う日本脳卒中学会研修教育施設の認定を受けております。地域医療に貢献できる人材の育成に邁進して参ります。

認定については下記6項目をみたすことが求められ、当院では全ての条件を満たし大隅半島唯一の認定を受けました。

- 1.日本脳卒中学会認定脳卒中指導医が1名以上常勤している施設であること
- 2.日本脳神経外科学会、日本内科学会、日本リハビリテーション医学会、日本医学放射線学会、日本救急医学会いずれかの認定施設であること
- 3.脳卒中に関する教育機能をもつ以下のいずれかの施設であること
 - ①特定機能病院もしくは大学病院
 - ②脳卒中関連の年間新患入院数が100例以上で、脳卒中診断・治療に必要な諸設備を有し定期的にカンファレンス(症例、CPC、関連診療科のセミナーなど)を行っている病院
- 4.日本脳卒中学会が作成した脳卒中専門医カリキュラムに基づいて研修出来ること
- 5.認定期間は1年とし、1年ごとに更新申請を行う
- 6.各施設の脳卒中施設長は1年毎にWeb上で日本脳卒中学会研修教育施設の年次診療実態調査票の提出を義務とする



一次脳卒中センター (PSC:Primary Stroke Center) 認定について

「一次脳卒中センター(PSC)」とは、地域の医療機関や救急隊からの要請に対し、24時間365日脳卒中や脳卒中を疑う患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が、患者搬入後可及的に速やかに診療(t-PA静注療法や脳血栓回収療法)を開始できる施設です。

日本脳卒中学会が定める「一次脳卒中センター(PSC)」の認定要件は下記のとおりですが、当院ではすべての条件を満たし認定を受けております。

- 1.地域の医療機関や救急隊からの要請に対して、24時間365日脳卒中患者を受け入れ、急性期脳卒中診療担当医師が、患者搬入後可及的に速やかに診療(t-PA静注療法を含む)を開始できる。
- 2.頭部CTまたはMRI検査、一般血液検査と凝固学的検査、心電図検査が施行可能である。
- 3.脳卒中ユニット(SU)を有する。
- 4.脳卒中診療に従事する医師(専従でなくてもよい、前期研修医を除く)が24H/7D体制で勤務している。
- 5.脳卒中専門医1名以上の常勤医がいる。
- 6.脳神経外科的処置が必要な場合、迅速に脳神経外科医が対応できる体制がある。
- 7.機械的血栓回収療法が実施出来ることが望ましい。実施できない場合には、血栓回収脳卒中センターや包括的脳卒中センターとの間で、機械的血栓回収療法の適応となる患者の緊急転送に関する手順書を有する。
- 8.定期的な臨床指標取得による脳卒中医療の質をコントロールする。



2020年院内症例研究発表会を開催

毎年恒例の「院内症例研究発表会」が2020年10月22日(木)に開催されました。諸問題に向けた調査研究の結果や取組が発表され、病院全体として共有しました。終了後のアンケートでは、「新たな知識を習得でき今後の業務に活用できる、自部署が取り組む課題が明確になった」など前向きな意見が多く見られました。

〔発表内容〕

経管栄養剤による下痢への対応	栄養科
周術期シバリング予防策を見出す ～術後シバリングを起こした13例のデータ分析～	外 来
在宅看取り支援を行う中でコミュニケーションがもたらした効果について ～1事例を振り返って～	居宅介護支援事業所
降圧剤を持参薬から院内採用薬へ変更した時の血圧変動について	薬剤科
小脳梗塞の病変部位と予後の傾向について	リハビリテーション室



「部署紹介」について

病院には医師や看護師だけでなく、臨床検査技師や医療事務など多くの職種が在籍しています。当院も同様に様々な専門資格を持った職員が、各部署で活躍しております。

同じ職員ですから顔を合わす機会は多くありますが、他部署の目標や細かな業務内容まで知る機会がこれまでありませんでした。

2020年「チーム徳田の医療・ケアを再考する」をメインテーマとし、他部署の目標や実際の業務内容を知り、部署間の連携を深め、個々の組織が自発的に行動することを目的に「部署紹介」を開催しました。その結果、「普段の業務で知りえない内容も知ることが出来た、今後業務で困った際に相談しやすくなった、多忙な業務を少人数で関わっており、お互いに労いの言葉や声掛けが必要」など他部署の業務を知る良い機会となりました。



新型コロナウイルス感染予防における当院の対策について

「新型コロナウイルス」が全国各地で猛威を奮っており、日々感染者増大等のニュースで世間を騒がせています。大隅地域におきましても徐々に感染者が増大しており、万全の体制を整える必要があります。基礎疾患のある方や免疫力が低い方は、重症化しやすい傾向にあることから、当院では下記のような対応で感染予防に努めて参ります。

① 入口での体温測定



② 手指消毒



③ 問診

2週間以内の行動について

- ・ 県外への往来
- ・ 県外の人との接触
- ・ マスク無しの集会参加
- ・ 同居家族に自宅待機中の濃厚接触者がいる
- ・ 37.0度以上の発熱

○ マスク着用について ○

日本も世界もWithコロナ社会となりマスク着用は日常化され、最近では様々な種類のマスクを見かけます。「布マスク」「サージカルマスク」「N95マスク」などありますが、私たちが日常で使用するのはサージカルマスクや布マスクです。理化学研究所が公表しました「マスクによる飛沫拡散防止効果」によると、不織布マスクが最も高く、次いでポリエステル相当マスク、綿相当布マスクの順で飛沫拡散を防ぐとのことでした。新型コロナウイルスは主に飛沫感染なので、日常生活では布マスクでも予防効果は期待できますが、密集度により感染リスクが高くなることもあります。どこで使用するかが重要となりますが、他の人と触れ合う程の距離であればより効果の高いマスクがお勧めです。「うつらない、うつさない」ためにも病院受診時は、不織布マスクの使用をお願い致します。

診療予約についてお知らせ

かねてより診療時には長時間お待たせして、大変ご迷惑をおかけしております。当院では、外来での待ち時間を極力短くするために、再来診察のみを予約制としております。外来診療終了時に次回の受診予約を入れますので、医師と相談の上、日時を決めて下さい。その際、診療予約票をお渡ししますので、次回の診療時にご持参ください。なお、担当医師の希望がありましたら、遠慮無く外来看護師へ声をかけてください。

病院長

○当院では下記の通り曜日別に外来診療担当医が変わります。

外来診療予定表

(2021.2.1)

	月	火	水	木	金	土
外来診療担当医師	徳田	徳田	諸木	徳田	徳田	ます にて お前 知の ら月 せ間 いた し予 定表
	諸木	諸木	橋口	諸木	諸木	
	橋口	田中 (午後)	田中	田嶋	橋口	
	岳元		岳元	新名主 (午後)	岳元	

*手術、検査などにより変更される場合があります。不明な点がございましたら、受付へおたずね下さい。

医療法人 秋津会
徳田脳神経外科病院
通所リハビリテーション
とくだ居宅介護支援事業所
 〒893-0011 鹿児島県鹿屋市打馬1-11248-1
 TEL.0994-44-1119(代)/FAX.0994-40-3155
<https://tokuda-hp.com/>

診療時間 平日 午前8:30~12:00 午後2:00~5:30
 土曜 午前8:30~12:30 (土曜日午後・日曜日・祝祭日は休診)

※救急は、24時間365日
 いつでも対応いたします。

毎月健康保険証の確認をさせて頂いております。月初めの来院日には保険証の提出をお願い致します。また、保険変更等ありましたら早めに受付までお知らせ下さい。

面会時間 午前10:00~午後8:00

